

診察と健診は全く違うものです

皆さん、健康診断は毎年受けられていますか？
「私は、しょっちゅう病院で診察ば受けとっけん、健康診断は受けんでも大丈夫ばい！」と、よく言われる人がいますが、病院で受ける診察と健診は、全く違うものです。病気で受診では、病名に対する検査しかできません。生活習慣病の多くは自覚症状がなく、知らないうちに病気が進行して手遅れになることも少なくありません。定期的に健康診断を受けることで、自分の健康状態を確認し、病気の早期発見、早期治療を行うことが可能になります。自分のため、何より大切なご家族のためにも、年に1回は健康診断を受けましょう。
和水町健康管理センターでは、次のような各種の健診メニューを用意しています。

●健診メニュー

特定健診

特定健診（40歳から74歳の人を対象に行われる健康診断）は、あなたがメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の状態にないかどうかを調べる健診です。
生活習慣病の危険を早めに察知し、もし発症した後でも、生活習慣・運動習慣の改善によって重症になるのを防ぐことを目的としています。

日帰り人間ドック

生活習慣病をはじめとする、からだの異常の早期発見に大きな威力を発揮するのが「人間ドック」です。人間ドックは、通常の健診より検査項目が多いため、一般の健診で異常がなかった人でも、人間ドックで異常が見つかることもあります。

事業所健診

町内外の事業所ごとに、常時勤務している従業員の方に対して、1年に1回実施する健診です。労働安全衛生規則に基づく定期健康診断のほか、特定業務従事者の健康診断も実施しています。

協会けんぽ生活習慣病予防健診

当センターは、協会けんぽ生活習慣病予防健診実施機関に指定されています。
「全国健康保険協会」に加入されている事業所にお勤めの被保険者（ご本人）に、補助を利用して気軽に健康診断を受診していただける健診です。通常の安全衛生規則に基づく定期健康診断をはじめ、胃がん検診までできる健診になっており、通常の健診より低コストで受診できるため、近年、この生活習慣病予防健診を受診される事業所が増えております。

※就職の際などに必要な健康診断（診断書の作成）は、内科外来で行っております。

●受けた後が大事です！

当センターでは、健康診断の結果「要再検査」「要精密検査」と判定された人に対して、医療機関へ早期受診していただくための案内を実施しています。

しかしながら、なかなか医療機関への受診が確認できない状況にあります。せっかく受けた健康診断を、より有意義なものにするためにも、要再検査、要精密検査などの結果であれば、必ず医療機関を受診しましょう。

スタッフ一同、和水町健康管理センターでの健診をお待ちしております。



和水町健康管理センター



健診待合室

問い合わせ先 和水町立病院 健康管理センター ☎0968・86・3696

歴史調査の楽しみ方

江栗城跡

40

大田 幸博
（元・菊水町史編集委員会副委員長）

平

成28年は、揺れに揺れ、辛酸舐めた大変な年でした。広報の掲載は、2ヶ月遅れになりますので、年の瀬に原稿を書いています。29年は、良い年になります様に、願って止みません。

登城道の出口付近に残る造成地

90は、大型の造成地ですが、留意すべき点は、上段89との段差面です。急峻に削り出されて、2・62mの高低差があります。長さ34mもあり、迫力があります。89と88の段差面も、2・56mの高低差があり、こも長さ33mで、はっきりした削り出しの壁が構成されています。

これらの箇所は、堀切を構成するU字谷の北側部分で、その東端にあり、90と登城道の間も、高低差3mを越える段差面があり、さらに登城道の側壁は、凝灰岩の絶壁になっています。この区画の守りは、極めて堅いものがあります。

造成地の調整箇所

U字谷の北側部分にあります。東端では、北側から南側へ尻上がり、若干、高くなっています。そのため

に、90の南側では、91と92の小段を設けて高さを調整しています。

これらに関連するのが、93です。

U字谷の東西方向に並列する造成地ですが、この箇所は、地形の先端で1段低くなっているのも、無理をせず、93の小段を設けています。結果として、91・92・93で、南北並びと東西並びの造成地を繋ぎ合わせる格好になっています。上手い造成の仕方、91・92と登城道の壁も、高低差4m強の大きな削り出しが見られます。92は、ちよつとした物見の場所に使えそうです。

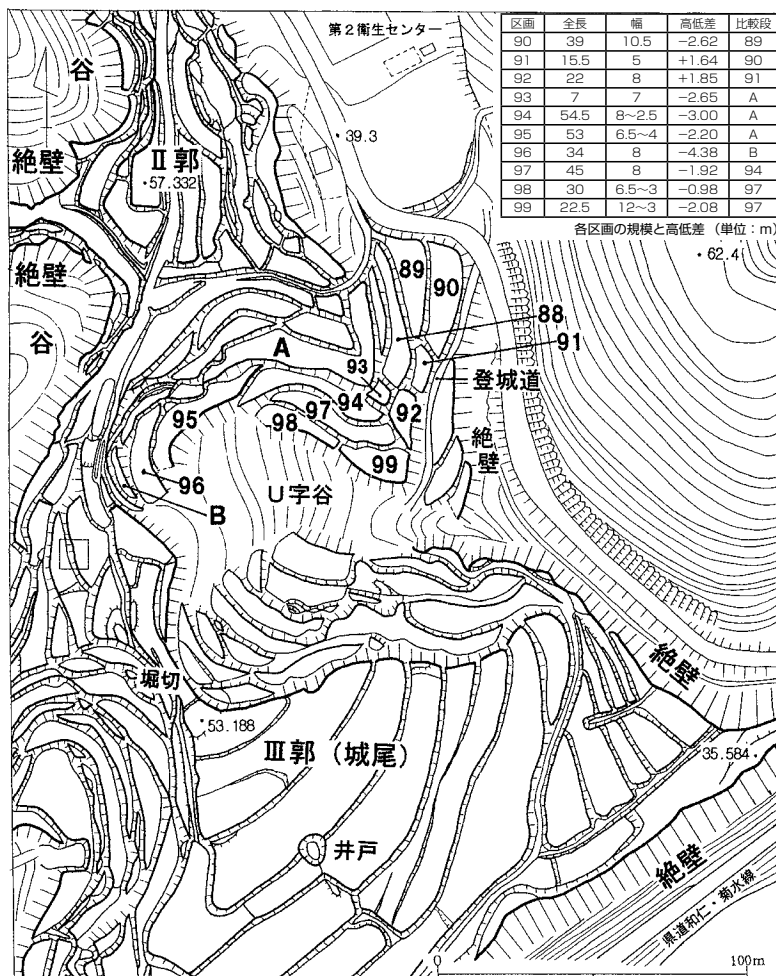
U字谷の北側部分にある東西向きの造成地94と上段Aとは、3mの高低差があります。94から眺めると、ここも段差面は、長さ35mの帯状の削り出しが壁のように連なっています。同様な事は、94と97の間にも見られます。1・92mの高低差があり、97は、真つ平に造成されています。

96と上段Bとの間は、削り出しが極めて顕著で、見上げるような人工的な絶壁が形成されています。長さ19m、高低差は4・38mもあり、よく

どここまで、斜面部を削り出したと感心させられます。細く括れた城尾の鞍部をさらに、手を入れて細くしたものです。後世に崩れもなく、法面は、良好な状態に保たれています。96は、形の整った造成地です。

〔付記〕今月の調査区では、特に、

法面（段差面）の削り落しが目に付きました。高低差のあるものは、迫力があり、威圧感さえ感じられます。削り出しは、中世城にとって、極めて効果的な防禦施設と思われます。崩れの少ない事にも驚かされます。当時の土木技術は、確かなようです。



江栗城跡・Ⅲ郭 登城道出口周辺図